

支倉常長フェロー報告書

提出日 2010年 9月 28日



申請者	氏名	久田 修
	所属・職	呼吸器内科・助教（高等教育開発推進センター）
出張期間	2010年 9月 20日 〜 9月 26日	
渡航先	スペイン・バルセロナ	
渡航目的	学会参加（欧州呼吸器学会）	
発表演題名あるいは 共同研究課題名	A normal range of KL-6/MUC1 independent of elevated SP-D indicates a better prognosis in idiopathic pulmonary fibrosis.	
得られた成果など	欧州呼吸器学会（ERS）年次総会は、欧州のみならず、世界中からの参加があり、呼吸器関連の国際学会としては、米国胸部疾患学会（ATS）総会に次ぐ規模を誇っている。申請者は、びまん性肺疾患を専門としているが、この領域においては、米国・欧州・日本の3極で見解を異にする事柄も多く、今回のような国際学会を通して、世界共通の理解を深める事が重要である。 今回の ERS 総会では、「A normal range of KL-6/MUC1 independent of elevated SP-D indicates a better prognosis in idiopathic pulmonary fibrosis.」と題して、間質性肺炎関連バイオマーカーの臨床的意義について発表を行った。KL-6 は、膜貫通型非分泌型ムチンである MUC1 に属する。一方、SP-D は、肺コレクチンに属する分泌糖蛋白で、自然免疫に関与する事が示されている。これらのマーカーが間質性肺炎で上昇するメカニズムは不明であり、間質性肺炎の病態解明の糸口となる可能性がある。さらには、間質性肺炎にとどまらず、肺における自然免疫などの基礎的事項の理解につながる可能性を有している。 今回は、ポスター展示に加え口頭発表の形式で発表を行った。欧州の呼吸器研究者から多くの貴重な意見を得る事が出来た。また、好感をもって発表が受け入れられ、今後の論文発表に励みとなった。 このような機会を与えてくださった支倉フェローシップ関係者に感謝申し上げます。	

- ※ 帰国後 10 日以内に報告書を提出してください。HP に掲載することがあります。
- ※ 可能であれば顔写真、学会風景写真を添付してください。
- ※ 用紙が不足する場合は、適宜加えてください。

